

鉄道×自転車で広げる、 地域モビリティとしての可能性

近畿日本鉄道株式会社 創造本部観光開発・地域共創部/名古屋統括部運輸部営業課



1：背景・課題

鉄道事業者としての使命

鉄道は幅広いお客様の、様々な目的での移動を支える手段としてご利用いただいています。地域の公共交通としての役割はもちろん、地域経済の活性化を支える役割も担わせていただきながら、間接的に「まちづくり」に関わる存在として、安全・安心な輸送サービスの提供を最優先としながら事業に邁進しております。

公共交通が直面している課題

しかしながら、沿線人口の減少→利用者の減少→ご利用状況に応じた利便性の低下→運賃収入の減少→さらなるサービスの低下といった連鎖に歯止めがかからず、さらには利便性維持に必要な不可欠な労働力確保問題が課題の深刻さを加速させているのが現状です。二次交通の空白地帯化や、観光客回遊減少に伴う産業の衰退といった負のスパイラルが、郊外エリアの沿線各地で起こっています。

鉄道の弱みをポジティブ変換

時代をこえて沿線地域を支える公共交通としてあるためにはどうすべきかを模索し、これまで着地点となる駅からの移動に難があった鉄道の弱点をカバーする手段として、自転車の可能性に着目。体力の有無や自転車への造詣に関わらず利用できるルール設計をベースにしつつ、鉄道×自転車の行動範囲を最大限広げるため、伊勢志摩地域でサイクルトレインを開始しました。

伊勢志摩という歴史ある風光明媚な地域で行うサイクルトレインは、「地域の足」としてのご利用のほか、移動もアクティビティとして楽しんでいただける「観光の手段」として、選択肢のひとつになっていくことを目指しています。

2：近鉄の伊勢志摩地域での取り組み

サイクルトレインを通年実施

〈平日〉五十鈴川～賢島（朝ラッシュ以降タラッシュまで）
〈土休日〉松阪～賢島（朝9時～夕方19時まで）

※GW・お盆・年末年始といった多客時期をのぞき通年で実施中

※運行に関する詳細はこちらから▶▶



輸送不要のイベント列車を運行

春・秋のサイクリングシーズンには大阪・名古屋から輸送不要のイベント列車を運行。サイクルラックを積載したサイクルトレイン-KettaAを運行することで、自転車で楽しむ伊勢志摩のPRを実施しています。



通学需要への応用可能性を検証

沿線にある三重県立志摩高等学校の生徒を対象に、通学にサイクルトレインをご利用いただけるよう、事前登録制で対象列車以外の営業列車にも自転車を載せていただける取り組みを行っています。生徒への定期的なご案内とともに、ご利用ルールに関する協議を実施しています。

駅を拠点とした「地域回遊拠点」の整備

国土省「日本版MaaS推進事業」を活用しながら伊勢・鳥羽・志摩エリアの駅および周辺観光地にもシェアサイクルを整備し、モニターツアーなどのプロモーションとも掛け合わせながら、市町の垣根なく自転車で巡ることができる動線を実現しています。



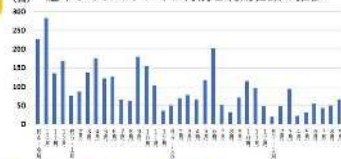
沿線地域での連携模索

太平洋岸自転車道利活用推進三重地区協議会に参加されている関係者をはじめ、今後の伊勢志摩地域における自転車利活用について忌憚のない意見交換ができる場として、ワーキンググループを発足しました。

3：ご利用状況と課題の認識

月別のご利用状況推移

（※） 通年サイクルトレイン月別ご利用台数の推移



全体的にご利用が減少傾向にあり、観光のアクティビティとしても、地域のモビリティとしても周知・浸透に苦戦している状況です。

自転車で走りやすい環境整備の重要性

自転車伊勢志摩の各所をめぐる楽しみ方の情報が少なく、走りやすい道の選定や安全なルートの計画など、自転車初心者では楽しみにくい状況です。

鉄道事業者単体での取り組みの限界

本取り組みを初めて3年目を迎えますが、「移動の選択肢」として認知され、「地域の価値を高めるモビリティ」になるためには、行政や地域とともにニーズを正しく知り、目指すビジョンを描き、どのように実現するかを具体的に協議していくことが肝要であると痛感しています。

4：今後の展望

①鉄道×自転車の「日常化」

地域における移動に関する課題を分析し、移動サービスのニーズを知ることで、鉄道×自転車の活用方法やルールのあり方をブラッシュアップしていく必要があります。「あったらいいな」を届けることで、新しいモビリティを日常生活の「あたりまえ」の風景になることを目指します。

②行政・地域と連携した環境整備

自転車が安全・安心に走行できる環境の実現に向け、道路管理部門・観光振興部門の両者と連携しながら以下の取り組みの推進を目指します。

ソフト面

- ・回遊ルートを選定し、推奨ルートとして発信
- ・地域住民への自転車走行に対する意識づけ
- ・自転車乗降時のマナー啓発

ハード面

- ・自転車ネットワークエリア・路標を設定し、優先度に応じた実施計画の策定
- ・自転車専用通行帯や矢印標路指標等誘導等の整備

③データ活用による利用実態の可視化

シェアサイクルの利用動向、途中経由地などを一部近鉄電車ご利用データと掛け合わせてグラフ表示することができるBIツールの開発および自治体やDMO等と共に閲覧できる環境整備を進めています。

5：目指す未来像

行政・住民・企業が協働して創る、
“持続可能な地域モビリティ”

本取り組みは、地域を訪れる方々の観光満足度だけでなく、地域で暮らす方々の生活満足度のいずれもが満たされていくことを目標としています。自転車は、車での移動では見過ごしていたかもしれない地域の魅力を、改めて見つけるのに最適な移動手段です。自然豊かで奥深い観光資源をあますところなく楽しんでいただくための環境整備として、そして、ますます課題の多い二次交通の課題解消の手段として、今後も鉄道×自転車の新たなモビリティの提供に取り組み、地域の移動を支えるプラットフォームとなれるよう努めてまいります。